



はこべら

家庭であいさつ

三学期が始まり、三週間が経ちました。子供たちは寒さにも負けず、よく学び、よく遊び、元気いっぱい学校の生活を送っています。

機会があることにお伝えしているところであり、東小は「響かせよう 響き合おう」を合言葉に声を響かせ、心を響き合わせる子供たちの姿を求め、「あいさつ」「返事」「発表」の向上に取り組んでいます。これまでの取組を通して、教師も子供たち自身も少しずつではありますが、変化、成長を感じているところです。

しかし、学校評価アンケートの「あいさつ」について見ると、児童、教師は共に、昨年度末や今年度一学期に比べ評価が上がっていたのですが、保護者の皆様の評価は低く、昨年度から変化がありません。

【あいさつ評価】児童 教師 保護者

昨年度一学期末	3・2	2・5	2・9
今年度一学期末	3・1	2・9	2・9
今年度二学期末	3・3	3・2	2・9

これは、保護者の皆様には、学校全体の様子が捉えにくいこと、子供たちの家庭での変化があまりないということが理由かもしれません。

「あいさつ」は、身に付けた方がよい習慣であることに異存のある方はいらっしゃらないと思います。そこで、東っ子のあいさつをレベルアップするために力をお貸し願えないでしょうか。家庭でのあいさつを見直し、家族全員で「家庭でのあいさつを当たり前」にする取組をお願いしたいのです。できているご家庭も多いと

思いますが、もう一度、**家族全員**で意識して取り組んでいただければと思います。家庭でできないことが、外でできるはずがありません。まずは、保護者の方から子供たちへあいさつの声をかけてあげてください。

「おはよう」「おやすみなさい」
「いただきます」「ごちそうさま」
「いってきます」「いってらっしゃい」
「ありがとう」「ごめんなさい」

学校でも引き続き取り組んでいきます。家庭と学校、地域が心をつなげて取り組み、東っ子のあいさつを本物にしましょう。来年度の評価が0・1ポイントでも上がることを願っています。

CRT学力検査について

十二月に全学年で実施したCRT学力検査の結果の速報が届きました。来週には各家庭へ結果を配付します。

この検査の目的は、児童の課題を把握し、その課題を次年度に持ち越すことなく、改善につなげることです。ご家庭でも、正答率だけでなく、お子様の得意、不得意を確認し、褒め、励ましてあげてください。

学校においても、個別のフォローアッププリント等で指導を行います。また、学年、学級の課題については、全体で補充指導を行い、改善へとつなげていきたいと思っています。

東小全体の傾向をお知らせします。全学年、全教科（全学年で国語と算数、五・六年生は加えて理科と外国語を実施）で、全国平均を上回りました。教科では、

どの学年も国語が他教科に比べ定着率が高い傾向にあります。県の指定を受け国語科の研究に取り組んでいる成果が表れつつあります。また、昨年度と比較すると、どの教科においても課題としていた「活用」に改善が見られました。

学力を高めるにはより良い授業が行われ、子供たちが学習に意欲をもって集中して取り組むことが大切です。加えて自分を律して家庭で学習する力を育てることも必要です。東小では、自分で考え学習できる力を育てるために、中高学年では自主学習に取り組みさせていきます。身の回りから疑問をもち調べてまとめたり、授業内容の復習をしたり、発展的な学習をしたり、充実したものになりつつあります。

大谷選手からグローブが届きました

一月十八日の夕方、大谷選手からのグローブが届きました。十九日は一日展示し、二十二日から学級に回し全員に触れさせました。自分のクロムブックで写真を撮影するなど大喜びです。

二十五日には体育委員会が管理しながら、実際にキヤッチボールをして使いました。大谷選手の「野球しようぜ」の思いが子供たちに届くように、たくさん子供たちに使ってもらいたいと思っています。



「ほめる・しかる」

人は「なぜほめる?」「なぜしかる?」のでしょうか。それは、相手の間違っただけの行動に気が付き、改善し、成長してほしいという思いがあるからです。コーチングが脚光を浴び始めると、“しかる”ことは効果的ではないような考え方が広まりました。しかし、“しかられる”ことから学び、改善した例はたくさんあります。ではいったいどうすれば、伝わるしかり方ができるのか?

そこで、今回は、理想のほめ方・しかり方についてコーチングや人材育成の書籍を参考に、いくつか例をあげてみました。

ほめ方 (相手の心にエネルギー補充する)	ハイブリッド (プラスの言葉を添える)	しかり方 (改善点を提案し、正しいルートに導く)
<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつする(自己肯定感＝相手の存在を認める) ○いつも(片付け)、ありがとう(相手が望む言葉を探して、心から感謝の言葉を伝える。＝自己有能感を高める) ○任せよ(その人の存在を認めているから頼む) ○君は明るいね→君といると僕まで元気になる!(YouよりIのスタンス) ○君ならできる(プラスの言葉) ○頻りに声かけ(セカンドシグナル＝見ている・関心があるという姿勢) ○視点を変えて子どもを見る(がんこ、こだわりが強い→自分の考えをしっかりと持っている)※リフレーミング 	<ul style="list-style-type: none"> ○(よい部分を先にほめて)さらにここまでできたらなおいいね!と指摘する ○君でも気付かなかったか(相手を評価しているメッセージを追加する) ○「待ってるぞ、早くしなさい」と“愛情”“信頼”“認める”などの気持ちを付け加える ○あなたのよさが伝わらないよ(認めている&気付かせる) ○今までのあなたなら言わなかった(認めている&気付かせる) 	<ul style="list-style-type: none"> ○しかる前が大事 ☆まずは、信頼関係を築く! ☆こういう時に、私はしかる!(しかる基準を宣言) ○君のミスは、みんなもよくしてしまう。みんなも気を付けなさい!(人ではなくミスを責める) ○冷静にしかる(目的ではない) ○“好き”“大切に思っている”という感情でしかる ○“しかる”前に“教える”“注意する”がある ○強く長くしかるより、正しい行動を教え、実行させる ○しかった後が大事 ☆しかった後、励ましの言葉をかける ☆しかった後、できる瞬間を待ち、見逃さずにほめる



こうしてみると、大人が子どもをどれだけしっかりと見ているかで、伝わり方が違ってくると言えます。見ているからこそ、相手に届く言葉やタイミングを選ぶことができるのです。そして、子どもがしかられた後に成功し、成果があげられたなら、子どもは“罰”というより“価値ある指摘＝報酬”に変わるはずですよ。